

本県に適する稲発酵粗飼料(WCS)用イネ品種の特性と作期		
[要約] 本県に適する稲発酵粗飼料(WCS)用イネ品種として新品種5品種を選定し、早植え・晩植適性を明らかにした。これらの結果をもとに、本県に適するWCS用イネ品種と移植期を組み合わせることで従来よりも作期を拡大できる。		
農業総合センター農業研究所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

稲発酵粗飼料(WCS)用イネ品種の栽培特性を明らかにし、収量(生全重)3t/10a以上が得られる品種を選定する。また、WCS用イネ品種の移植期別収量等から早植え・晩植適性を明らかにし、食用品種の作期と重ならないような品種と移植期を組み合わせた作期を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

1) 新品種の早生2品種(「べこごのみ」、「夢あおば」)、および極晩生3品種(「たちすがた」、「リーフスター」、「タチアオバ」)とも耐倒伏性等の栽培特性は優れ、目標収量以上が得られる。また可消化養分総量(TDN、%)はいずれの品種ももほぼ同等であるが、TDN収量(kg/a)は晩生品種ほど多い傾向である(データ省略)。これらから、いずれの品種も本県への適応性はあると考えられる(表1)。

2) 県北地域における5月下旬の適期移植に比べ、晩植では供試4品種とも減収傾向となるが、目標収量以上は得られる(図1)。県南における「べこごのみ」は、5月下旬移植では目標収量以上が得られ、4月下旬の早植えではやや増収する。ただし、晩植では黄熟期が食用品種の収穫時期と重なるとともに目標収量を下回る(図2)。

3) WCS用イネ品種の早晩性、早植え・晩植適性等から、食用品種の作期と重ならないような品種と作期の組み合わせを策定した。これにより、従来栽培基準より作期を拡大できる(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) WCS用イネ品種の種子は(社)日本草地畜産種子協会から入手可能である
- 2) ホシアオバの千粒重は他品種より約25%重いため、育苗にあたっては必要苗立数が得られるよう播種量を増やす。

4. 具体的データ

表1 稲発酵粗飼料用イネの品種別生育・収量

試験場所	移植期	品種名	早出晩性	黄熟期		出穂後日数(日)	全重(生)(kg/a)	全重(風乾)(kg/a)	初わら比(風乾)	可消化養分総量(TDN, %)	稈長(cm)	穂数(本/m ²)	倒伏程度(0-5)
				月・日	月・日								
水戸市(作物研究室)	5月下旬	べこごのみ	極早	7.27	8.22	27	311.8	135.2	0.96	48.1	75	299	0.0
		夢あおば	早生	8.7	9.2	26	383.5	158.5	0.81	48.1	80	334	0.0
		ホシアオバ(奨)	中生	8.13	9.8	27	399.1	173.9	0.65	49.0	90	290	0.0
		たちすがた	晩生	8.17	9.15	29	435.0	177.1	0.55	48.6	99	242	0.0
		クサホナミ(奨)	極晩	8.29	9.30	32	473.5	187.4	0.83	48.5	82	274	0.0
		リーフスター	極晩	9.5	10.6	32	465.3	197.9	0.32	49.7	94	243	0.0
		タチアオバ	極晩	9.10	10.11	31	443.2	216.1	0.43	48.6	96	252	0.0
龍ヶ崎市(水田利用研究室)	4月下旬	べこごのみ	極早	7.10	8.8	29	310.8	123.4	1.23	46.8	83	381	0.4
		夢あおば	早生	7.18	8.16	29	380.0	149.4	1.05	45.3	88	401	0.2
	5月下旬	ホシアオバ(奨)	中生	8.9	9.10	32	415.7	168.6	0.86	46.3	111	310	0.6
		たちすがた	極晩	8.17	9.25	39	443.4	177.4	0.71	48.0	121	239	0.4
		クサホナミ(奨)	極晩	8.23	9.25	33	387.3	165.9	0.91	47.5	97	284	0.0
		リーフスター	極晩	8.31	10.5	35	397.5	170.9	0.45	48.1	112	239	0.4

注)栽培年:水戸市;H20~21年、龍ヶ崎市;H20~22年、ただし「たちすがた」はH20~21年 (奨):飼料作物奨励品種に既に登録されている品種
 移植期:水戸市;H20年5月26日・H21年5月28日、龍ヶ崎市;H20年4月25日・5月22日、H21年4月30日・5月22日、H22年4月30日・5月21日
 施肥量(kg/a):水戸市 基肥N:P205:K20=0.9:0.9:0.9、穂肥:N:P205:K20=0.3:0.0:0.3(出穂前20日施用)
 龍ヶ崎市 基肥N:P205:K20=1.2:1.2:1.2、穂肥:N:P205:K20=0.3:0.0:0.3(出穂前20日施用)
 黄熟期判定:水戸市;H20年・極早~中生は出穂後28日、晩生~極晩は同32日、H21年・極早~晩生は同25日、極晩は同30日を目安
 龍ヶ崎市;H20、H21年・黄化初率30~40%になった日、H22年・出穂後30日頃を目安
 TDNはH20~21年調査、乾物へ入、近赤外分析による

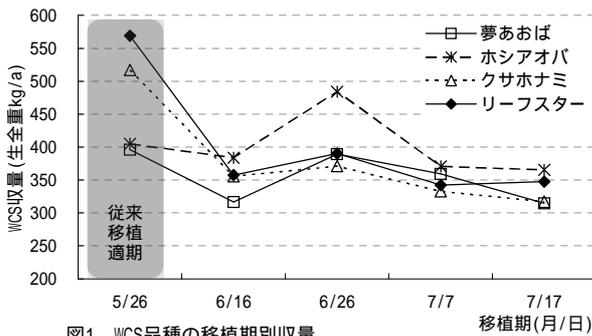


図1 WCS品種の移植期別収量 (水戸市・作物研、H20年)

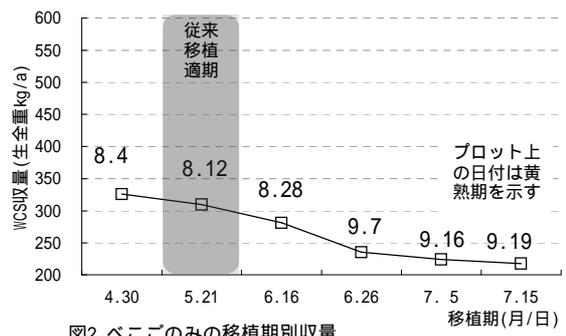


図2 ベこごのみの移植期別収量 (龍ヶ崎市、水田利用研、H22年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
主食用種	<移植> あきたこまち コシヒカリ							<収穫>
WCS用品種	現行	<移植>	クサホナミ					<収穫>
	新(県北)(県央)	<移植>	たちすがた					<収穫>
				夢あおば、ホシアバ				
				クサホナミ リーフスター タチアオバ				
新(県南)(県西)(鹿行)	<移植>	べこごのみ 夢あおば						<収穫>
			べこごのみ					<収穫>
			たちすがた					<収穫>
			クサホナミ リーフスター					<収穫>

図3 本県に適する稲発酵粗飼料(WCS)用イネの作型

*実線囲いは適期移植、点線囲いは早植え・晩植を示す

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

需給調整のための飼料用イネの安定多収栽培技術の確立・平成20~22年度・水田利用研究室、作物研究室